

令和3年度 第6回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和4年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名
食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間
令和4年1月27日（木）から2月10日（木）まで

4 調査方法
調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象
令和2、3年度希望郷いわてモニター 200名

6 回答者数
163名

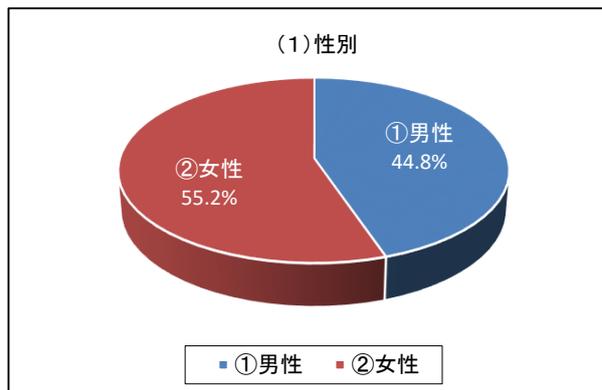
7 回答率
81.5%

II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

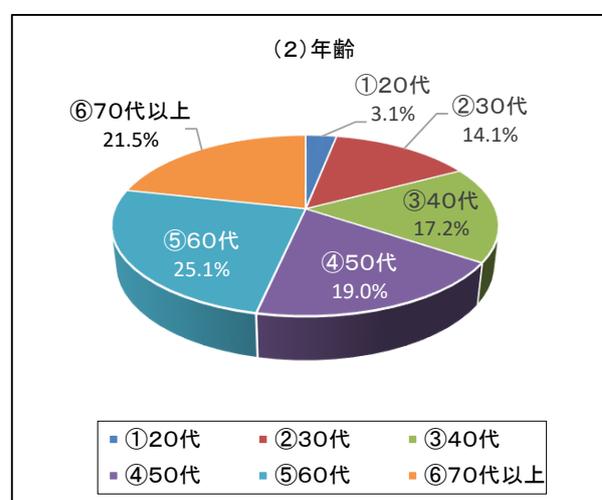
(1)性別

①男性	73
②女性	90
計	163



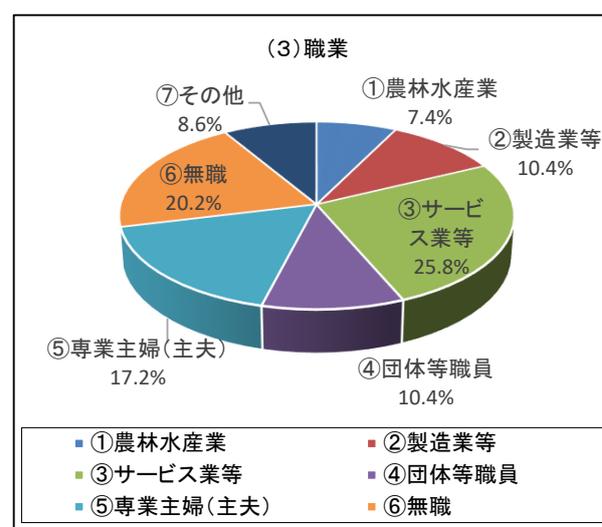
(2)年齢

	合計	男性	女性
①20代	5	2	3
②30代	23	11	12
③40代	28	10	18
④50代	31	11	20
⑤60代	41	20	21
⑥70代以上	35	19	16
計	163	73	90



(3)職業

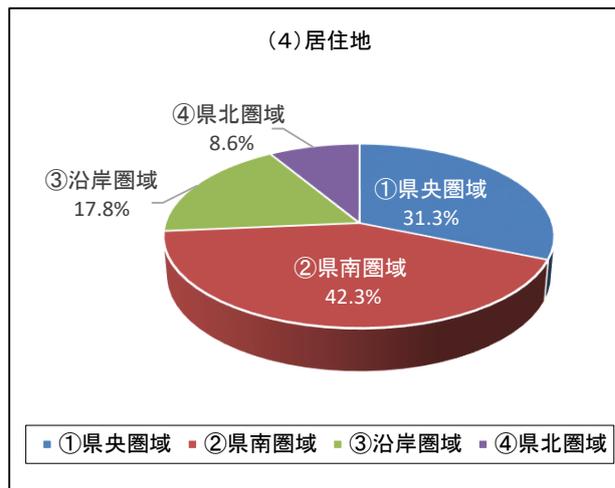
	合計	男性	女性
①農林水産業	12	6	6
②製造業等	17	12	5
③サービス業等	42	21	21
④団体等職員	17	4	13
⑤専業主婦(主夫)	28	2	26
⑥無職	33	19	14
⑦その他	14	9	5
計	163	73	90



※「その他」の内訳:パート、自営業、観光業、運送業、医療従事者 等

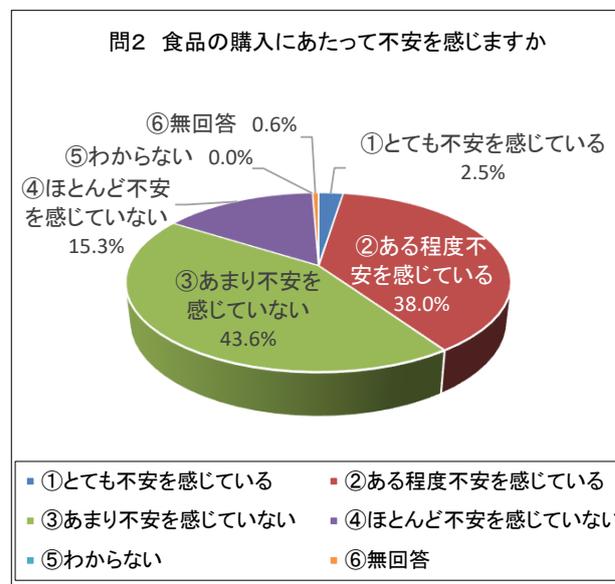
(4)居住地

①県央圏域	51
②県南圏域	69
③沿岸圏域	29
④県北圏域	14
計	163



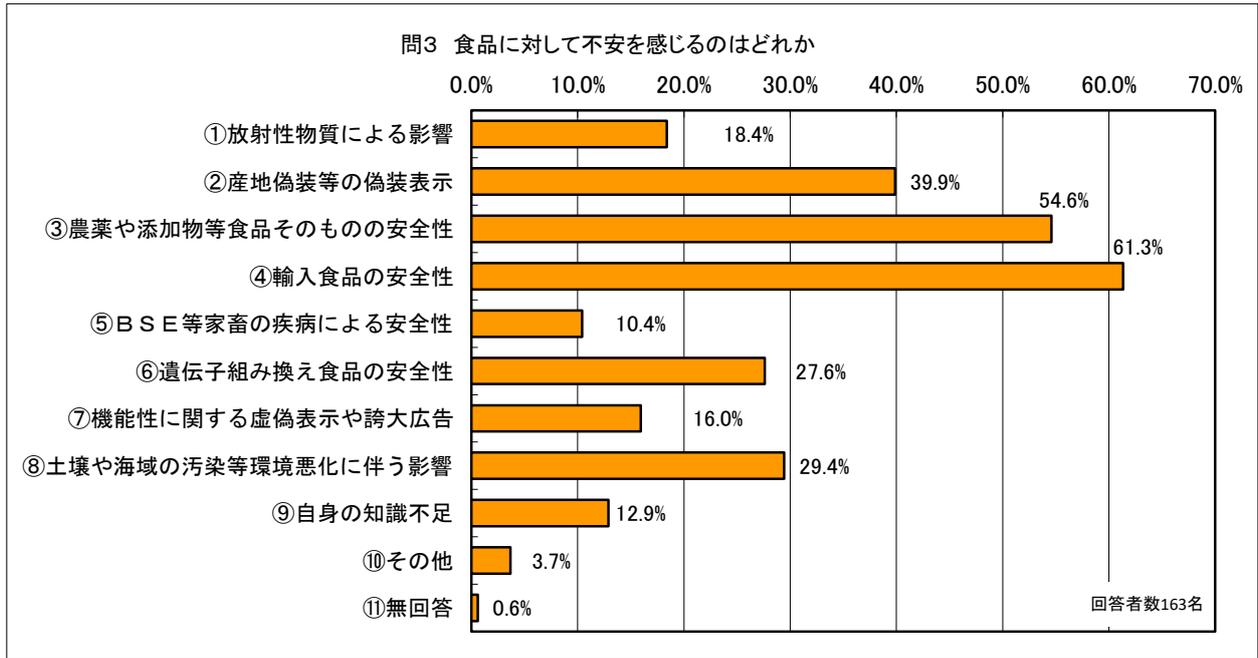
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	4
②ある程度不安を感じている	62
③あまり不安を感じていない	71
④ほとんど不安を感じていない	25
⑤わからない	0
⑥無回答	1
計	163



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は40.5%であり、不安を感じない人の58.9%を下回っている。また、前回(令和3年3月調査。以下同じ)の44.1%から減少している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

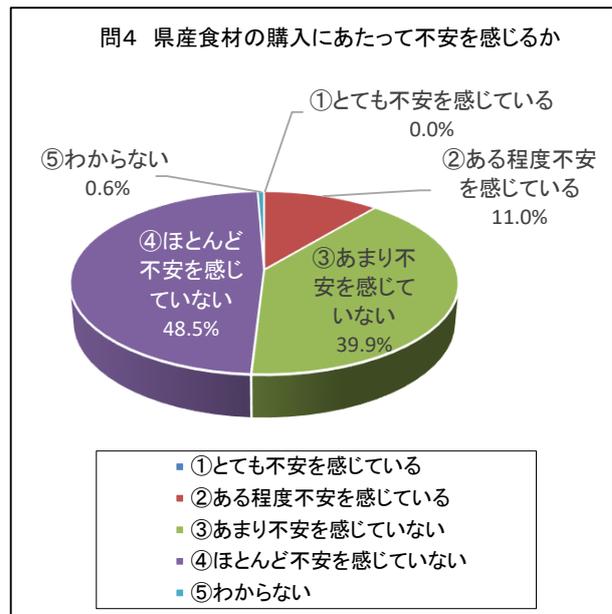


※「その他」の主なもの: 自分の選んだ食品が体に良いかどうか、供給難

不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「④輸入食品の安全性(61.3%、前回66.1%)」が最も多く、次いで「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(54.6%、前回56.5%)」、「②産地偽装等の偽装表示(39.9%、前回32.8%)」の順に多かった。
 なお、「①放射性物質による影響」は18.4%と、前回(25.4%)よりも減少している。

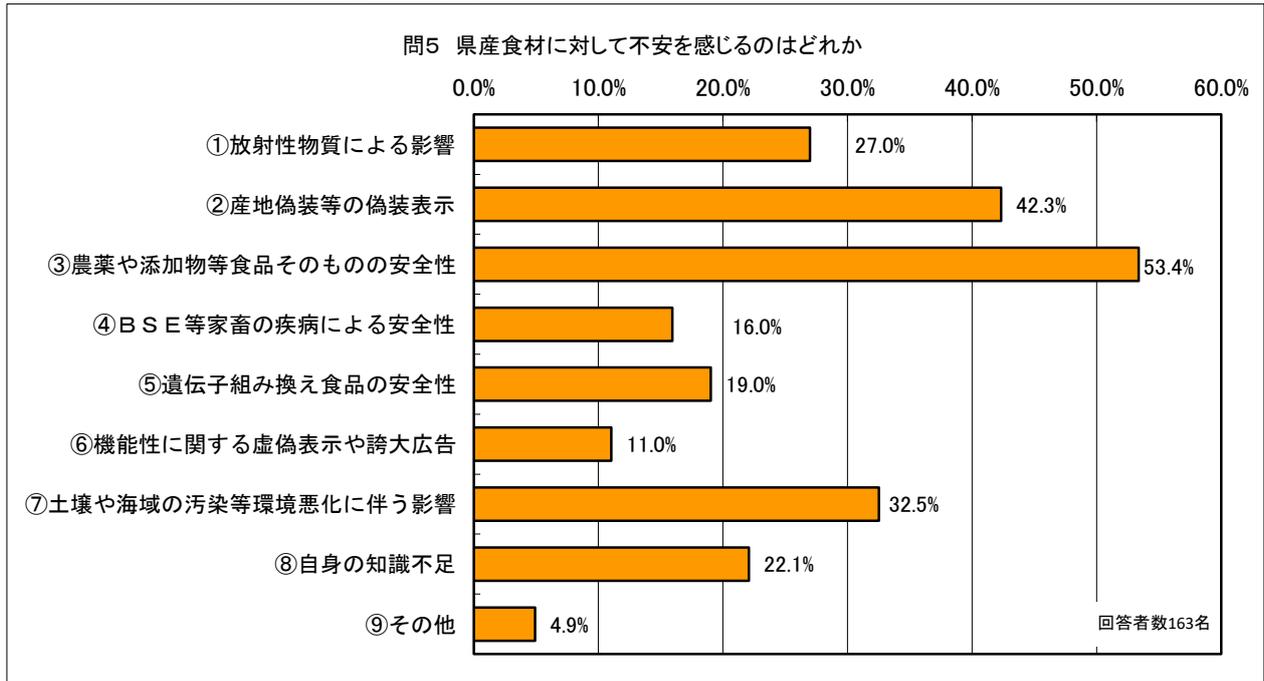
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①とても不安を感じている	0
②ある程度不安を感じている	18
③あまり不安を感じていない	65
④ほとんど不安を感じていない	79
⑤わからない	1
計	163



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は11.0%(前回9.0%)となっており、不安を感じない人の88.4%(前回90.4%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

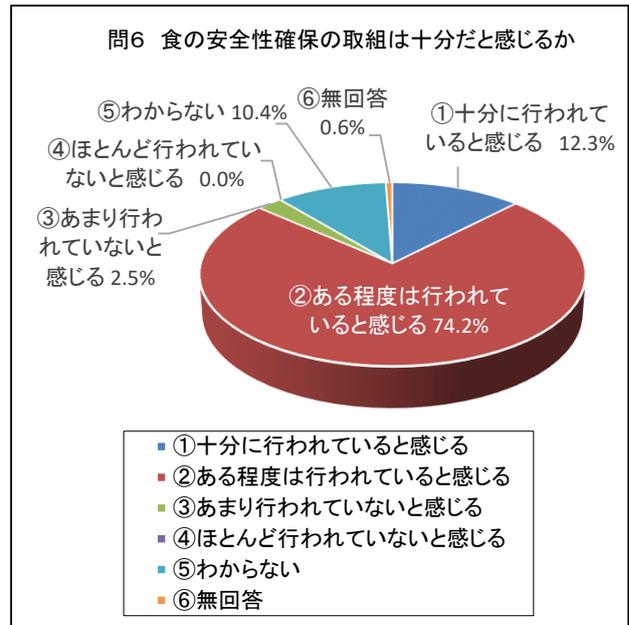


※「その他」の主なもの:生産の担い手不足、漁業不振 等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(53.4%、前回62.1%)」が最も多く、次いで「②産地偽装等の偽装表示(42.3%、前回29.9%)」、「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(32.5%、前回33.9%)」の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

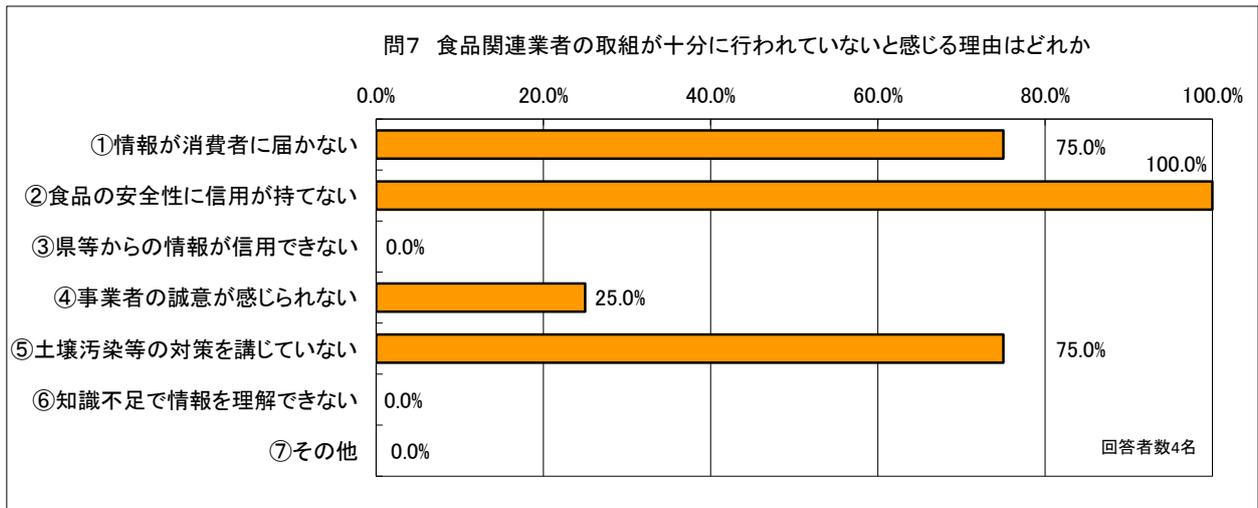
①十分に行われていると感じる	20
②ある程度は行われていると感じる	121
③あまり行われていないと感じる	4
④ほとんど行われていないと感じる	0
⑤わからない	17
無回答	1
計	163



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、86.5%(前回88.7%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

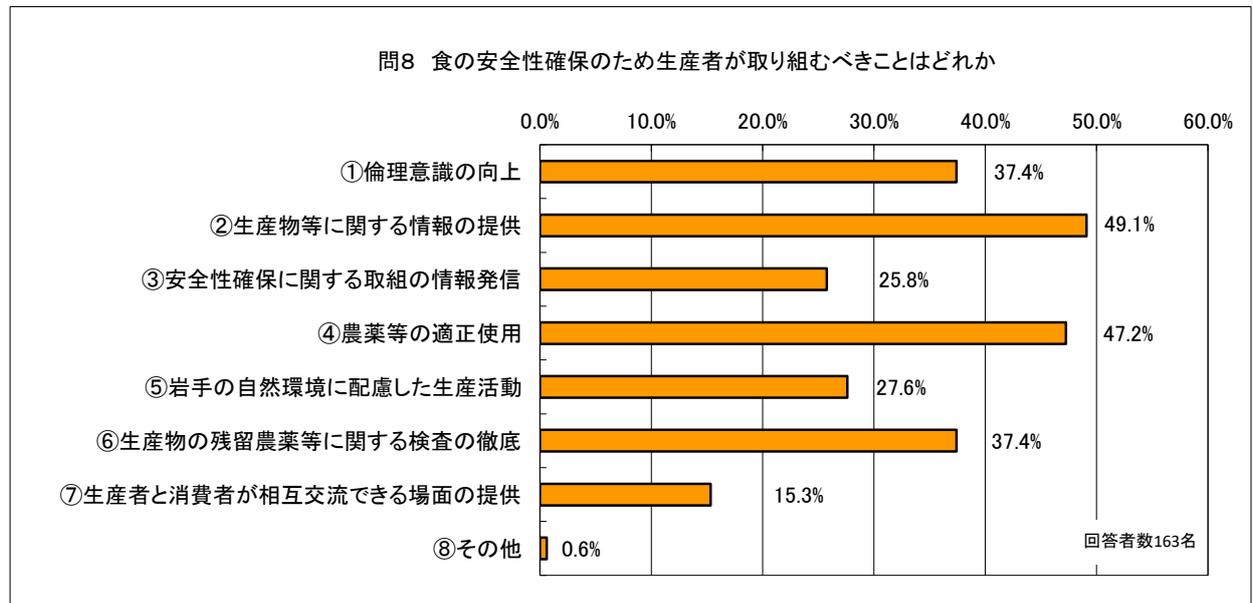
問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



安全性確保の取組が十分ではない理由は、「②食品の安全性に信用が持てない(100%、前回100%)」が最も多く、次いで、「①情報が消費者に届かない(75.0%、前回66.7%)」及び「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(75.0%、前回66.7%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



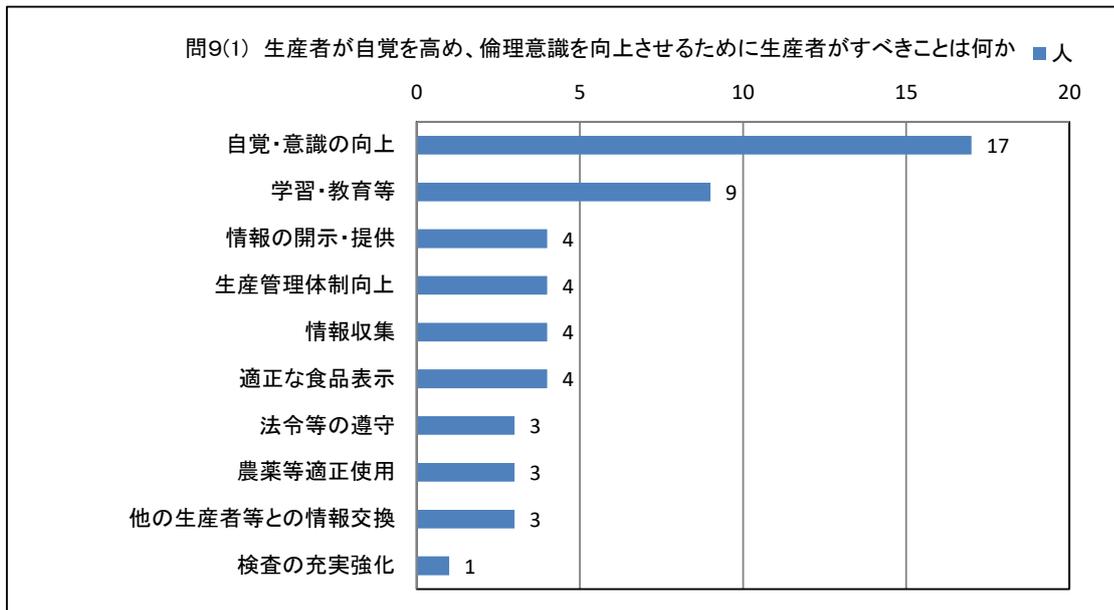
※「その他」の主なもの:大事に作って頂ければそれで良いと思う

県民が求める生産者の取組は、「②生産物等に関する情報の提供(49.1%、前回46.3%)」が最も多く、次いで「④農薬等の適正使用(47.2%、前回46.3%)」、「①倫理意識の向上(37.4%、前回24.3%)」及び「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(37.4%、前回40.7%)」の順に多かった。

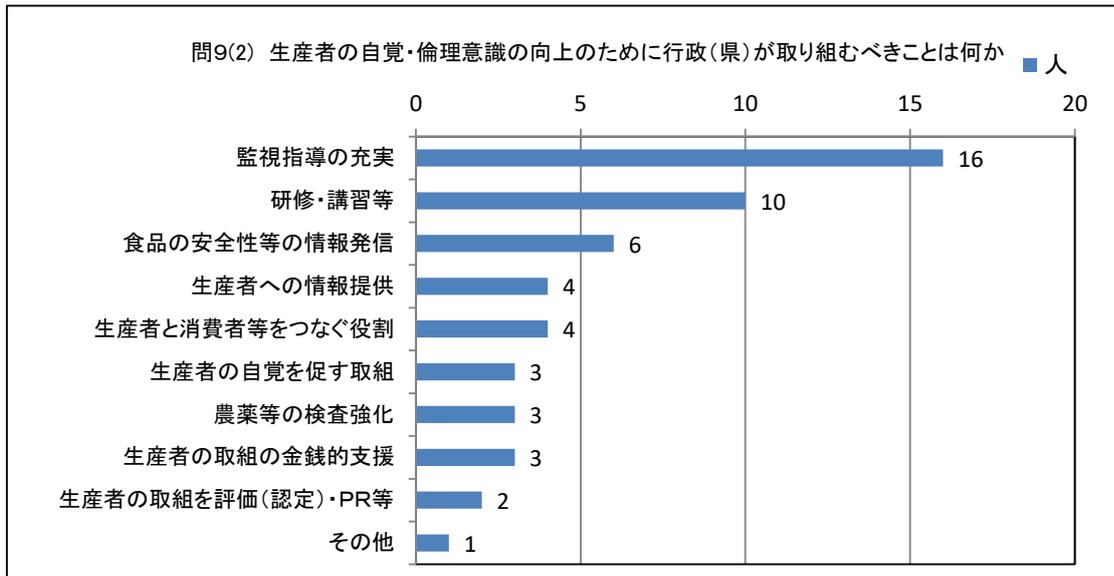
問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと

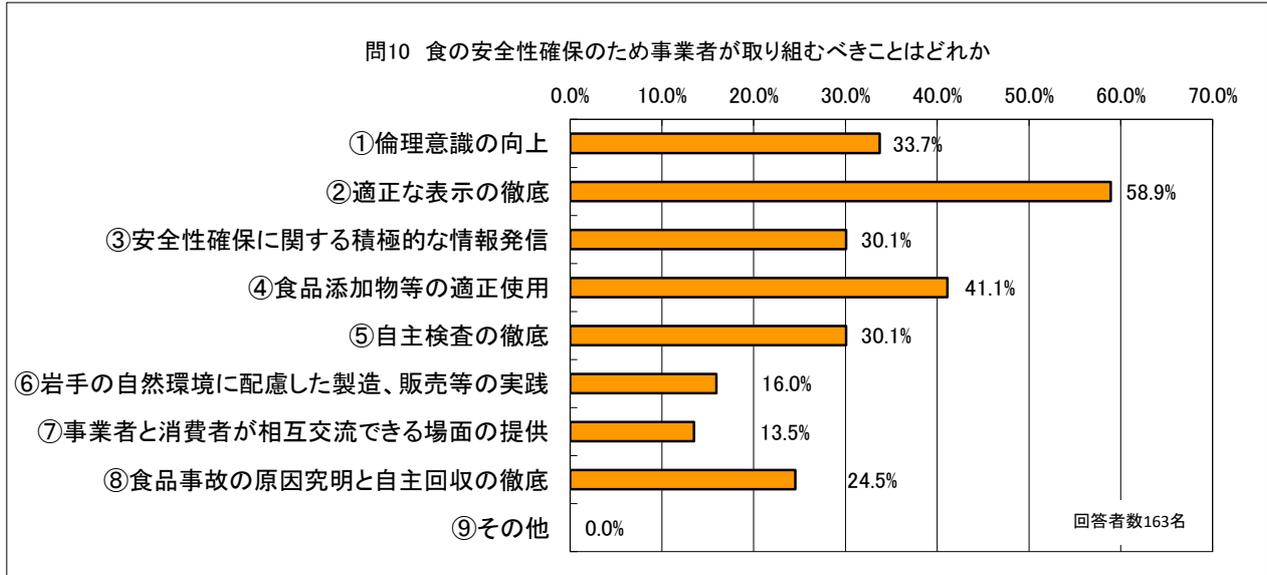


(2) 行政(県)が取り組むべきこと



生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関することが最も多く(17人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(16人)が最も多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

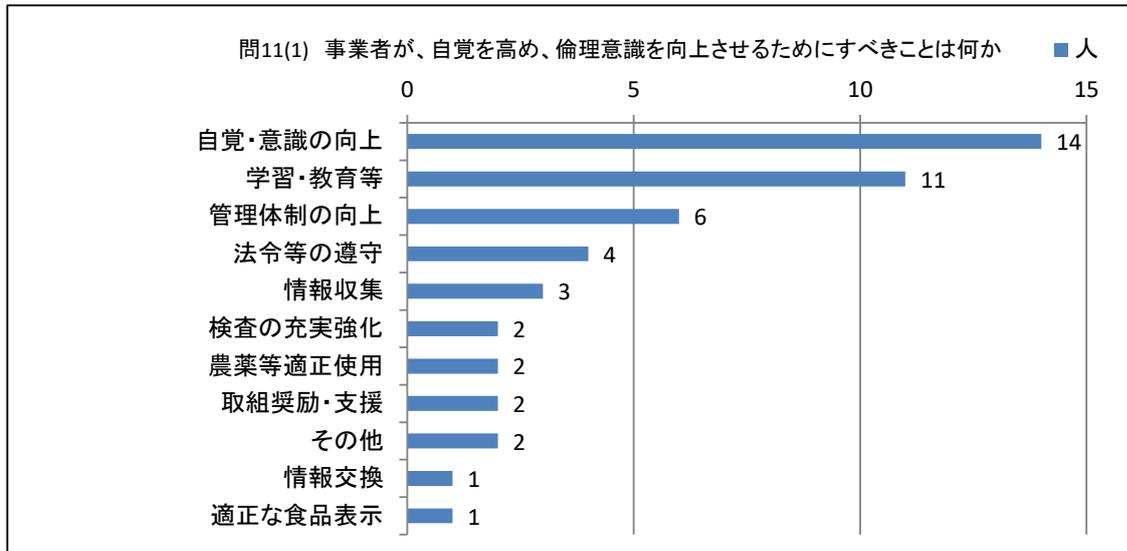


県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底(58.9%、前回49.7%)」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用(41.1%、前回44.6%)」、「①倫理意識の向上(33.7%、前回26.6%)」の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

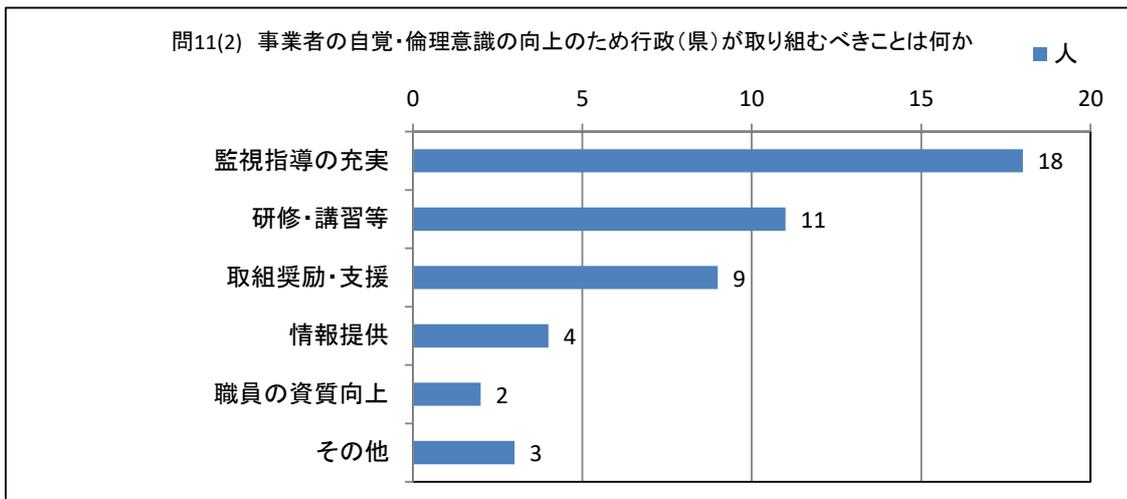
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いませんか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの:適正な価格で適正な量を適正な方法で売る、作る。

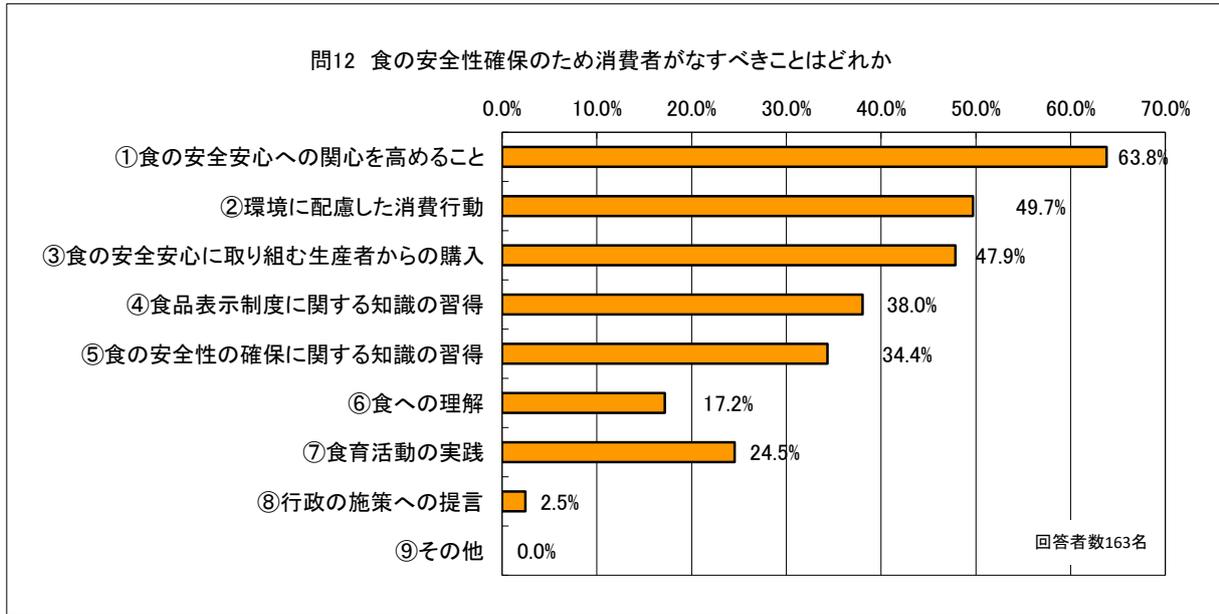
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの:異業種との交流の実施、生産者と事業者との交流意見交換、事業者同士の交流がもてるような会をつくる等

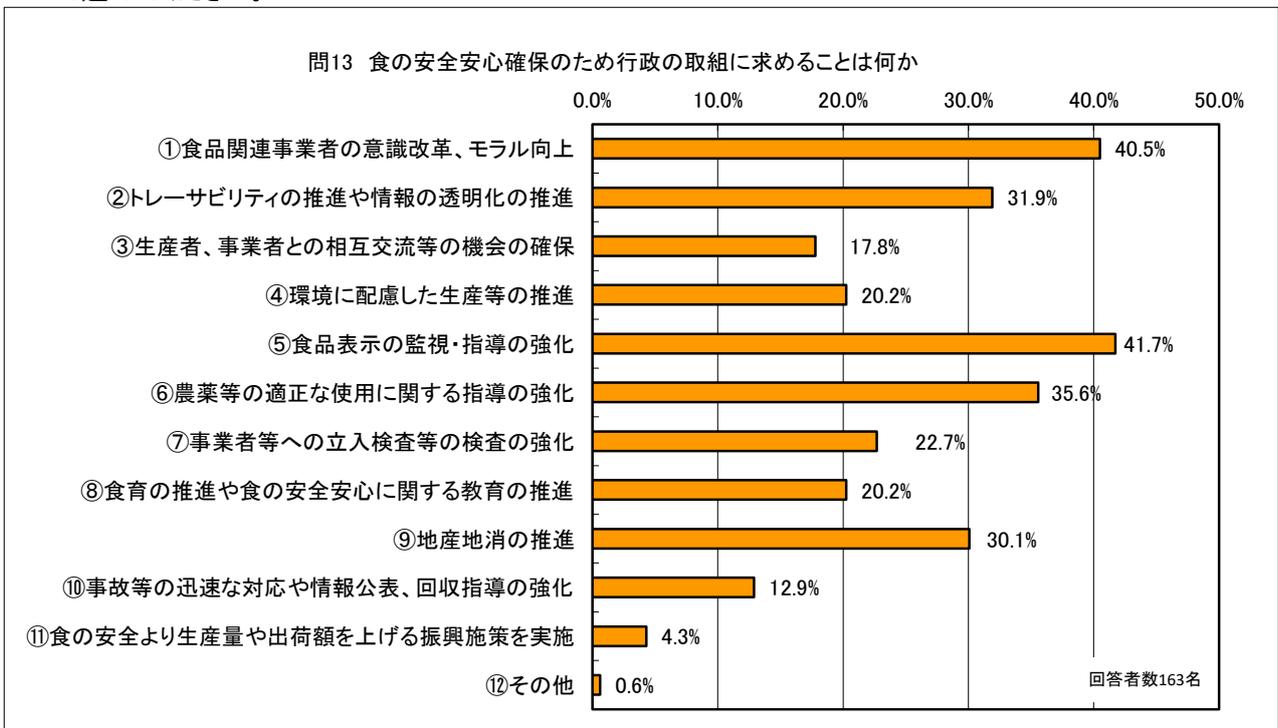
事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(14人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(18人)が多かった。

問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



消費者がなすべき取組としては、「①食の安全安心への関心を高めること」(63.8%、前回59.3%)が最も多く、次いで「②環境に配慮した消費行動(49.7%、前回45.2%)」、「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(47.9%、前回52.0%)」の順に多かった。

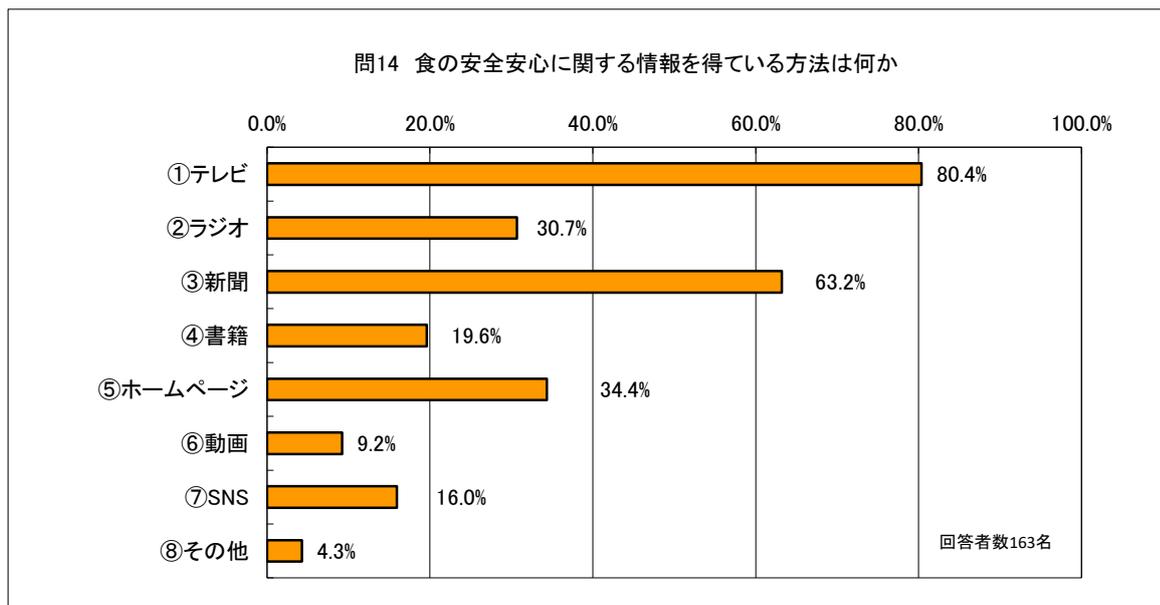
問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 適正価格での販売のための取組

行政の取組に求めることは、「⑤食品表示の監視・指導の強化(41.7%、前回35.6%)が最も多く、次いで、「①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(40.5%、前回29.9%)」、「⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(35.6%、前回41.2%)」の順に多かった。

問14 あなたが日頃、食の安全安心に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

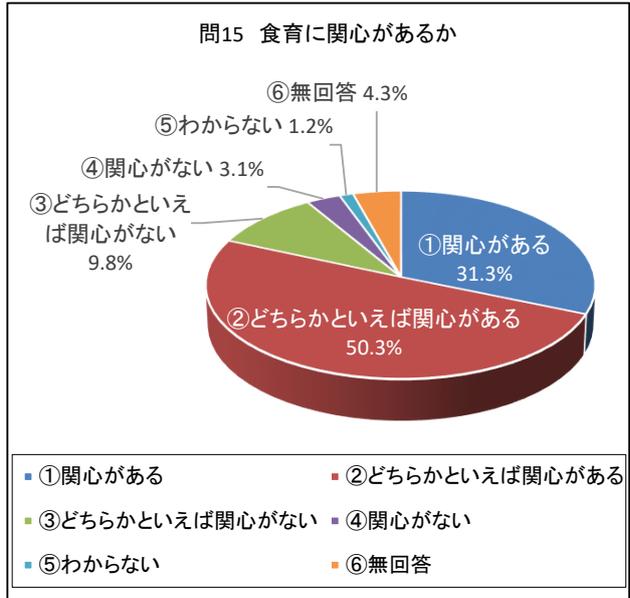


※「その他」の主なもの: 自治体の講習会、広報誌、工場見学、知り合いから 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(80.4%、前回83.6%)」が最も多く、次いで「③新聞(63.2%、前回61.6%)」、「⑤ホームページ(34.4%、前回38.4%)」の順に多かった。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

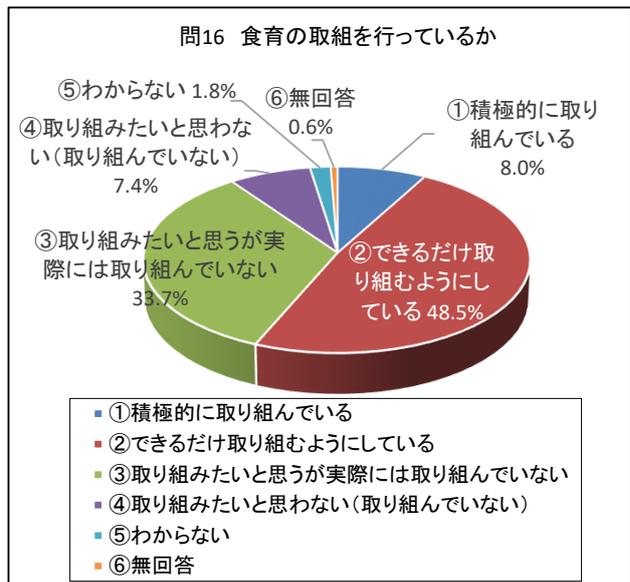
①関心がある	51
②どちらかといえば関心がある	82
③どちらかといえば関心がない	16
④関心がない	5
⑤わからない	2
⑥無回答	7
計	163



食育に関心がある人は81.6%(前回87.6%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

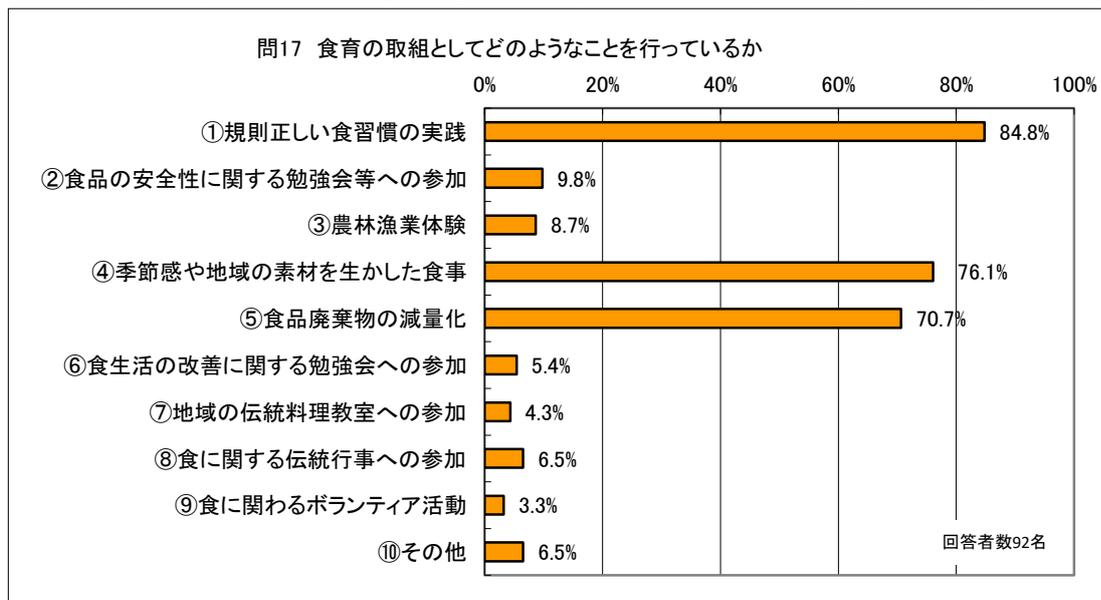
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	13
②できるだけ取り組むようにしている	79
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	55
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	12
⑤わからない	3
⑥無回答	1
計	163



食育の取組を行っている人の割合は56.5%(前回53.6%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が33.7%(前回36.7%)であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

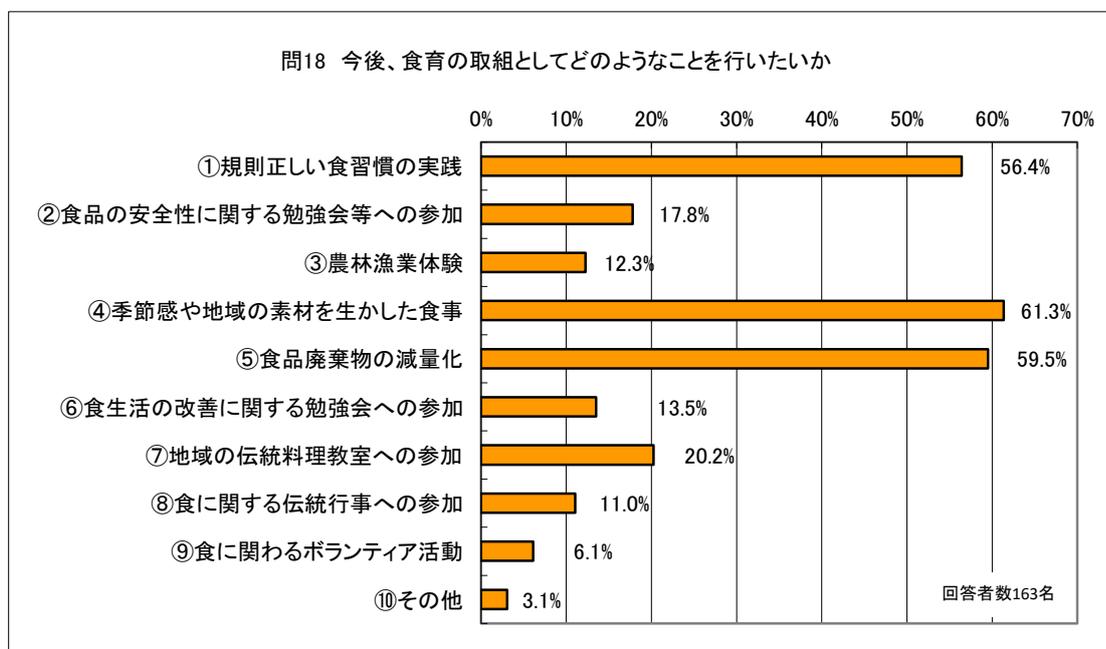
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 畑を作り野菜などを栽培して食べる、子どもたちへの農業機会と栽培した食材を使った食の機会の提供、食の安全を大事にしている方の所で食事をする、地産地消を心がける 等

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(84.8%、前回93.7%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の食材を生かした食事(76.1%、前回81.1%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(70.7%、前回70.5%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

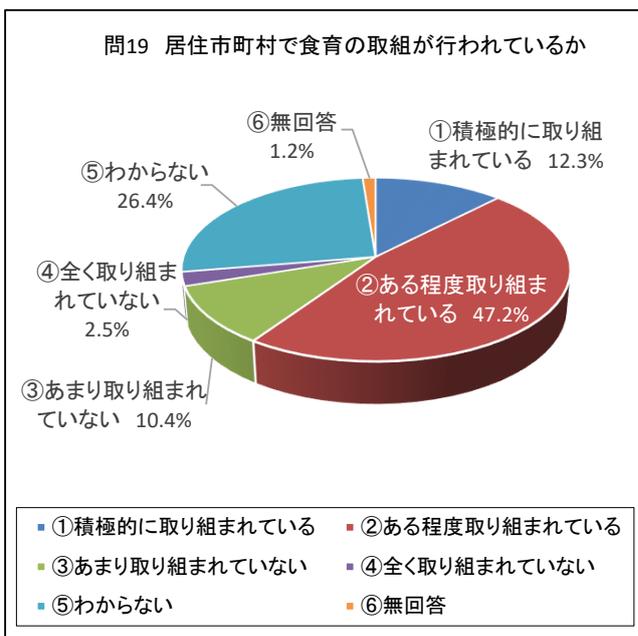


※ 「その他」の主なもの: 食事のバランスに配慮、男の料理教室への参加、ミニ菜園の継続、特段考えていない 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「④季節感や地域の素材を生かした食事(61.3%、前回54.8%)」が最も多く、次いで、「⑤食品廃棄物の減量化(59.5%、前回57.1%)」、「①規則正しい食習慣の実践(56.4%、前回59.3%)」の順に多かった。

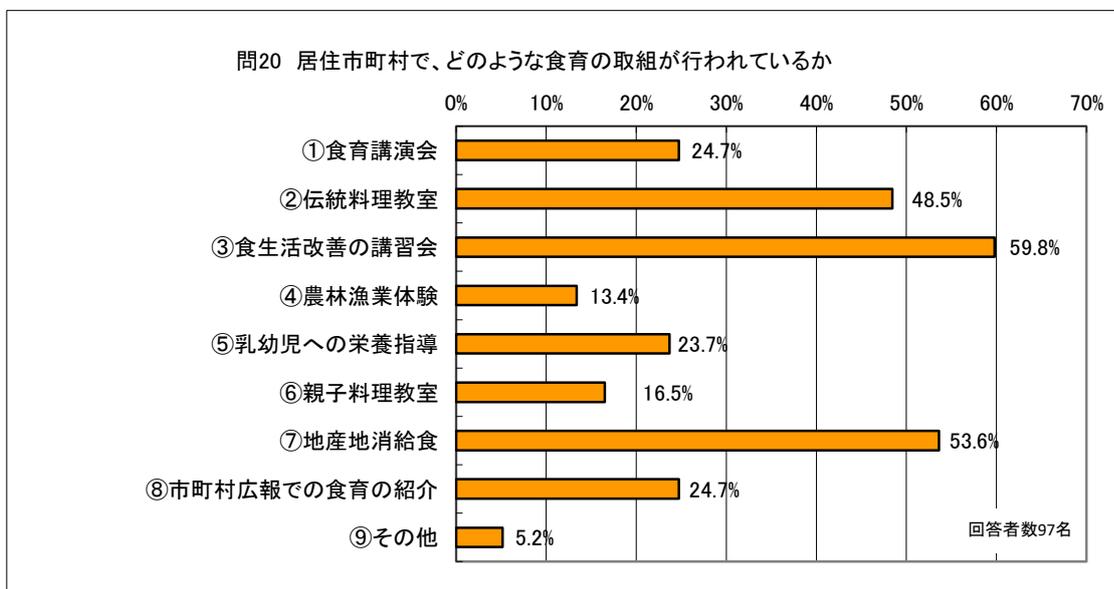
問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組まれている	20
②ある程度取り組まれている	77
③あまり取り組まれていない	17
④全く取り組まれていない	4
⑤わからない	43
⑥無回答	2
計	163



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は59.5%（前回58.2%）と前回と同程度だった。また、取組の有無が分からないという回答も26.4%（前回29.4%）と前回と同程度だった。

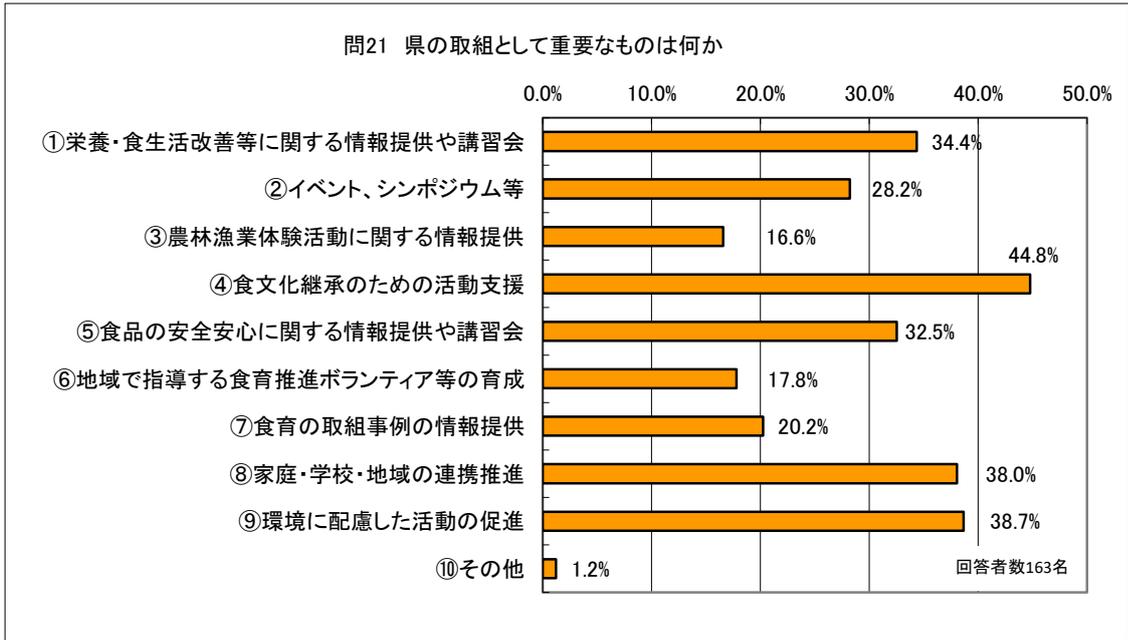
問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：伝統的な料理のふるまい、母親学級栄養指導、コロナのため行われていない 等

居住市町村の食育の取組内容は「③食生活改善の講習会（59.8%、前回51.5%）」が最も多く、次いで「⑦地産地消給食（53.6%、前回60.2%）」、「②伝統料理教室（48.5%、前回50.5%）」の順に多かった。

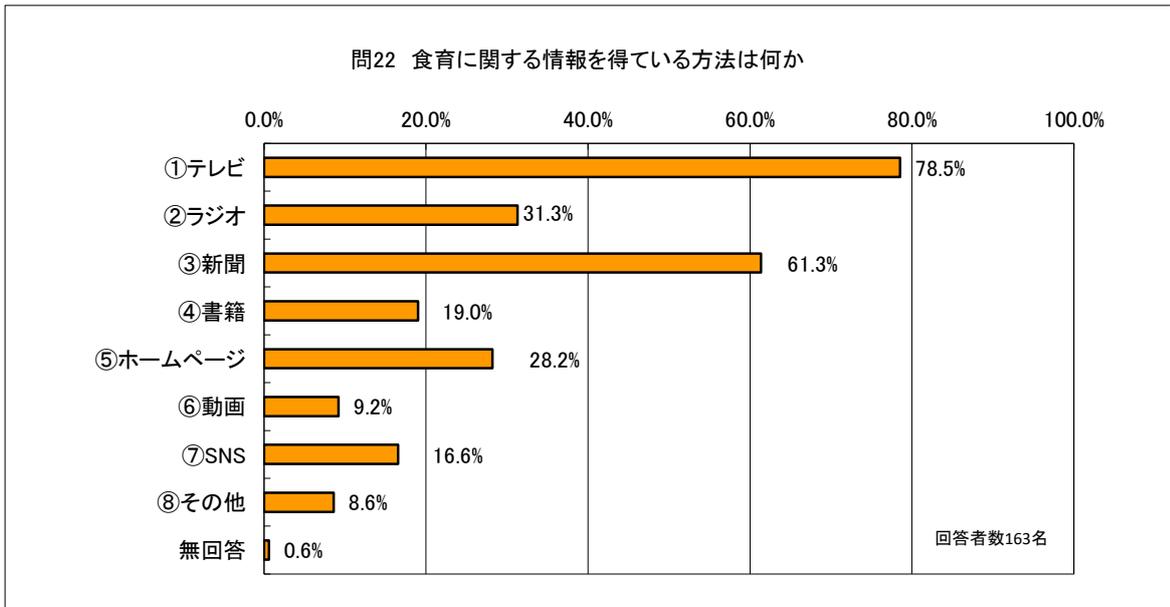
問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:食育に関する広報、分からない 等

県の取組として重要なものは、「④食文化継承のための活動支援(44.8%、前回47.5%)」が最も多く、次いで「⑨環境に配慮した活動の促進(38.7%、前回37.3%)」、「⑧家庭・学校・地域の連携推進(38.0%、前回39.5%)」の順に多かった。

問22 あなたが日頃、食育に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:広報誌、回覧板、勉強会、職場から、給食センターのおたより、知人から 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(78.5%、前回83.6%)」が最も多く、次いで「③新聞(61.3%、前回65.5%)」、「②ラジオ(31.3%、前回33.3%)」の順に多かった。

問23 食の安全安心、食育について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	身体は口から入った食材できている。身体と心はつながっている、心が健康じゃなければ、周りを幸せにすることはできないと思います。
2	つつい好きな物ばかり食べてしまうが、アンケートをきっかけに、いろいろ考えたいと思いました。
3	食育については普段の生活において、ほとんど意識することなくマンネリであったことは否めません。
4	輸入食品の安全は、どこで、どのように検証されているか又、国産基準との違いがあるのか知りたい。
5	60代の夫婦2人暮らしです。食べ過ぎに注意しながら日頃の食事を準備しています。たまに遊びに来る孫達には安全な国産の食品を使うように心がけ食事作りをしています。
6	県民になぜ健康でなければいけないかを問う。特に子供(小学生)に聞きたい。個人個人が食に対し関心をもつこと！！
7	自らの生活を守る意味でも進んで食材に対する知識をつけるべきである。 また、自然毒・加工品毒にも学んで行く必要がある。 食育の定義をはっきりするべきです。講習会では多様に捉えられて共通話題にならない時があります。
8	食の安全安心については、紫波町でやっている事業等に参加するようにしている。食育については、食の大切さを知るために、子どものいる家庭にはより手を貸してあげたいと思いますし、小学、中学などの子どもたちから食の大切さを教えたい、知ってほしい。
9	輸入食品に使われている農薬に不安はあるが、値段が安い輸入食品を選んでしまうことがあります。肉も安い輸入ものを買ってしまいます。安心安全な食品を生産している方の生活が潤い、事業継承していつてほしいと思いつつ安い輸入食品を買ってしまう状況をどうにかしてほしいです。
10	食品表示法の改定などに関する情報が、一般消費者に分かりにくいと感じている。また改正前後の消費行動の変化などの調査も行われているか不明である。調査結果の公表や、改定後の消費行動の変化などが分かれば、消費者だけでなく製造者側も意識付けのきっかけとなるのではないのだろうか。
11	賞味期限についてもっと詳しく知らせてほしいです。1日でも過ぎると食べない方が多くいます、すぐもつたいないいつも思っています。
12	”食育”は私のような高齢者に対してではなく、小学生から(幼児から)取り組むのが効果的だと思います。
13	現在の食生活の影響は、約10年後に現れるものと何かの書籍で見たので、これまでの食生活は決して間違っていないものと思う反面、10年後の状況に多少の不安を感じています。 また、コンビニエンスストアがどんどん身近な存在となっておりますが、コンビニで取り扱っている食品(おにぎり、弁当、総菜など)に多くの添加物が使用され、決して体には良くないという情報を目にする時があることから、本当のところを知りたいです。過敏に反応している訳ではないため、今でも日常生活で購入し食べていますが、明確に知ることが出来たら、と感じています。
14	最近一人生活で加工食品の利用が多くなっているが、商品の説明文字が小さく判読できないので、特に注意する項目については大文字で表示してほしい。
15	一般市民としては、食材はスーパーでの購入が多いと思いますが、特売の商品は中国産の物が多くあり、輸入時の受入検査が、どのような実施内容なのか、疑問に思うことがあります。輸入の商品は受入検査の内容の説明が、お店に表示されたら良いと思います。
16	食生活改善推進員協議会の会員として長く活動して勉強してます。また、ボランティア協力もしてます。
17	添加物の多さに危険を感じています。子供たちが幼い時期から口にしていることに不安を感じ、体に悪影響がある食品の正しい知識を身につけて食材を見極めて食の安全安心の食生活をするのが大事。
18	偽装表示は絶対に許せない、四季折々の自然食材を活用し、地産地消をしていきたい。
19	<食育>子供が小さい頃は積極的に取り組んだが、成人した現在は、常時食事が取れるように食材を準備しておく程度である。<食の安全>厳しいルールをパスして店頭に並んでいると思っているので、安全だと信じている。
20	コロナ関係もあり、いろんな行事が中止されております。
21	自分をコントロールしながら自身で食育を心掛ける
22	食品は安全でなければなりません。したがって、食品に関する情報について消費者がもっと関心を持つことが大切。
23	忙しさと貧困問題からくるものと思われるが、近年は食に関する関心の高い層と低い層がハッキリ分かれてきていると感じている。「旨くて安い」に興味を惹かれるが、果たして安全まで気にしている方々はどれくらいいるものだろうか。 また、海外と日本では農薬等の基準が異なると聞く。日本の基準が緩すぎるのではないかと感じる。あと子供のころからの食育は重要。学校単位、地域単位で、それぞれ取り組んでもらう機会を設ける環境づくりも、ぜひ行政にお願いしたい。

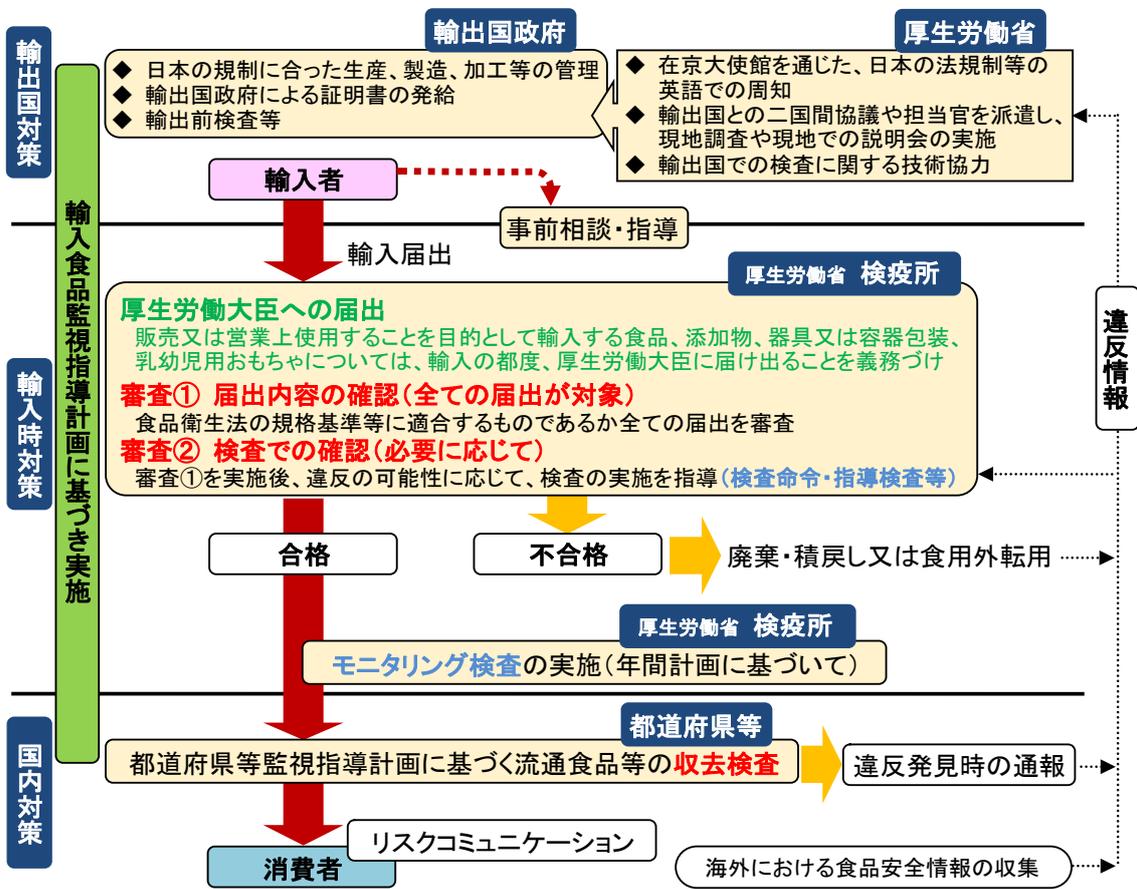
24	食品ロス削減に取り組んでいる。地産地消、米、野菜は自宅で生産、食すようにしており、その他必要と感じるものだけ買うようにしている。
25	春から自分でトマト、ナス、ピーマン、ジャガイモ等作物を作っている。
26	お惣菜や加工品、冷凍食品は手軽でよいし、今後、必要に迫られる時期が来ると思われるが、それまではできる限り、生産時の素材の形で手に入れ、料理して食べるように心掛けたい。
27	共働きが増え、食が簡素化される傾向にあり、食育という面ではあまり良くないかもしれないが、それよりも好き嫌いせず食べ残さないことが大事と思う。何でも地産地消できれば最高の消費行動であるし、マスコミなどで食品産地偽造などが取り上げられることもあり、消費者は安全安心な物を求めて気をつけて勉強していることと思う。生産者、事業者は消費者がいて商売が成立するわけなので、それを裏切るようなことは絶対あってはならない。私たち消費者も安全安心な物を自分の目で見極められるよう日々学んでいかなければならないと思う。
28	価格競争のため、偽装や農薬等の不正使用などが発生するのだと思っています。適正価格にすることにより、生産にコストを掛けられるので、安全安心が向上すると考えます。収入が上がれば後継者も育ち食の安全が継続されると思います。
29	家計的に少しでも安いものを買おうと考えるが、安くて大容量のものはどうしても外国産のものが多く、安心できる国産のものはそれに比べると高い。SNSやテレビなどで、一部海外において劣悪な環境下で食品が加工されている様子を見聞きするので、食に不安を感じながらも家計的には安いものを買わざるを得ない。将来的に子どもをもてば、安心できるものを食べさせたいが、食にかかるお金が高くなれば、どこかで我慢をしてもらわなければならない。この世の中は平等にあるべき「安心」までも、お金をかけて買う必要があるんだと感じてしまう。様々な食に関する講演や教育ももちろん必要なことではあるが、知っていても選択できない人たちが少なからずいるということも知ってほしい。 安心できる食材を、誰もが手の届く価格で買えるよう、安心できる栽培や加工をしている生産者の皆さんに補助金などを出して市場価格を抑え、買う人、作る人が国内だけでもうまく回していけることを願う。
30	岩手県南では、放射線の影響により、まだ採取販売できる山菜の種類や、畜産物の出荷にルールがあると聞きます。いつになったら安心して採取販売や飼育かできるのだろうか、心配になります。広い市内なので、山菜の収穫エリアを旧市町村エリアで制限することはできないのでしょうか？
31	育ち盛りの子どもたちにきちんと朝食をとらせたい。そのためにも家庭・学校・地域連携をすすめていけるよう援助をお願いしたい。
32	食べ物が当たり前であり、お金で買える便利さの裏で、生産者、製造者の苦勞を知り、もっと大切にすべき。また、人間中心の生活をもっと見直すべきと感じています。
33	安心安全な食を求めている方が多くなってきた。勉強会等やりやすいように、積極的に活動している方へ支援していただけると、取り組みをアピールしやすく広がると思う。
34	食品等の値上がりが続く、食費の負担が大きく、輸入品や加工品の食事が増えているように思います。でも私は、少しお値段が高くても産地のもの、季節のものを産直等で購入することが多いです。やはり、生産者が分かると安心もしますし、季節のものは、無駄な調味料も要らずに素材の味が感じられ、栄養もいっぱい取れます。若い世代の方に安心安全な栄養のある美味しいものをいっぱい食べて欲しいです。
35	医療とも関わるので、メタボ等に気をつける為に診療で啓蒙してほしい。
36	食材をムダなく使いきるよう努めています。地産地消をPRしている飲食店を好んで行くようにしています。
37	排泄、睡眠、運動と食との関連性を伝えていない。食と病(病気になる時、体調不良のときの食事)について学習が必要。
38	地産地消は重要なことだと思うが、安価な輸入品に頼らざるを得ないものもある。
39	栄養バランスに気を付けるべき
40	中国産(製)の野菜、製品は買わないと決めている。
41	若い母親に対する勉強会が必要
42	郷土料理教室をオンラインで開催してほしい。市ホームページなどで食べ残しを減らせるレシピの紹介してほしい。
43	食品のラベルに数多く記載されているのを見るとすごく不安を感じる。パッケージをシンプルにしてプラゴミ減につながるようにしてほしい。学校給食は食育にかなり期待できる成果を上げていると思う。
44	最近、熊本のアサリが話題になっています。もう何年も前から行われていて現在も行われているとのことですが。法により、一度浜に戻して熊本産。営利目的の経営者のどこにモラルがあるのでしょうか。法の遵守どころか悪用です。この状況を知らなかったという漁協、その他の関係者。食品事故はいつもこの様にして起こるのだと思います。多くの従業者を抱えている事業者等に対しては雇用問題等もあり、厳しい判断はできないのではないのでしょうか。
45	5年ほど前から花巻市の食生活改善推進員協議会の会員です。コロナの前は保健センターで習ったメニューを地域で伝達していました。今は、交流会さえもできない状況になっています。

46	みんなが手軽にできる食育、取組みやすい食育の情報を手軽に知りたい、知れたらいいです。
47	物価が上がっていることもあり、安い物を購入しがちだが、可能な限り、値段ではなく体に良い(添加物等が入っていない)食品を購入したい。
48	①地産地消が進むような手助けがほしい(生産者への支援、消費者への支援)、②消費が盛り上がるイベントを継続的に行ってほしい(1回だけで終わらせない)
49	家の畑で野菜を作ってみたり、おせちを作ってみたり。買って食べることは簡単だが、作ることで学ぶことはたくさんある。
50	〇〇市は一年あたり住民一人当たり食パン〇枚分の食材を毎日ロスしている、と言った情報があると、より身近に食育を感じる事ができると思う。
51	「アサリ」の産地偽装(中国産→日本・熊本産)について、国の対応が悪い(積極的でない)。どう対策・対応したらいいの？
52	食は生きていくうえで欠かせないものであるし、知るという点でいえばできるだけ小さい頃から取り組むことが重要と考えます。しかしながら今の時代、欠かさず三食食べていけるということ自体が難しい人もいる中で、安全ばかりを掲げるのもどうかと感じてしまいます。
53	食品の安全性を気にするのは大事だが、、食を過大にとらえて「これが絶対良い(悪い)」というような思想信条になるのは違うと思う。今なら、食に気をつけて免疫力を高めているからコロナにかからないとか。平均的な食の知識を持ち、過大な期待をせず、各人の体調や生活や年齢などに合わせて柔軟に食べればと思う。
54	最近、熊本県のアサリが中国産で産地偽装が発覚して、産地に関する不信感があります。生産者と消費者との信頼関係が大切だと思います。
55	食の安全性について自分は不足しているように感じた。もっとTVやメディアで多く発信してもらいたいと思う。
56	食の安全については、県産品や地元食材を選ぶようにする程度しか出来ていないので、今後はさらに各農家さんの取組等も知っていかれたらと思っています。 食育については、食事や栄養のバランスを考えつつ、食事の楽しさも忘れずにやってきたつもりでおり、子どもが成人した今も大切だと感じてくれていて良かったと思っています。 話を聞くと、食材や栄養に気を配る前に、孤食をせざるを得ない子供たちもたくさんいるようで、その辺りを含めた食育を、家庭ばかりではなく地域や学校が連携してもっとやっていけたらいいと思います。
57	食に関する仕事をしている方たちの意識が低いのかもしれない。
58	正しい食品表示をする事。期限が近いものから購入するようにする事が大切な事だと思います。
59	岩手県には、品質の良い農水産物の食材が豊富にあるので、素材を活かした料理や加工品等を他県にも宣伝、情報発信して、新鮮安全な食材を提供していく取り組みを続けてほしいと思います。 将来的には、農水産業を営む生産者さんの数が減っていくのではないかと心配です。継いでくれる人材を増やす取り組みも大事ですね。
60	スーパーで買い物をした時に、売れ残った惣菜などはどうなっているんだろうと疑問に感じる場合があります。
61	食の安全安心について、行政、県民、教育機関などが連携して取り組むことが必要だと思います。
62	地域としての取組みがめったにないので、外部の講習会などに参加している。地域内でも開催されれば良い。
63	食育の目的、意味が不明。食料自給率を100%まで持っていく方が重要。
64	人間にとって「食べる」は大切である
65	紫波町は産直が多いためか生産者さんとの距離が近く感じられ、安心感に繋がっています。 子どもの食育については、町の給食センターが、地産地消給食や児童のリクエスト給食など様々な工夫を凝らした献立を提供してくださり、食育環境が恵まれていると感じています。
66	過剰生産をしないようにして、捨てることが無いようにして欲しい。
67	化学物質過敏症を抱えています。健康には影響が及ばないとされる農薬などの使用に気を付けて食品の購入をしています。農薬等が健康には良くないと一概には言えませんし、それらに頼らない生産は経営として難しいとも思います。健康面での安全性を追求、かつ、経営としても成り立ち、消費者にとっての価格も高すぎず、と望むのは現実的ではないかもしれませんが、成り立つ状況を願っています。 食育についてですが、例えば白米とみそ汁の2品だけしかない食事から感謝する気持ちを持つことが、子どもだけではなく、大人にも大事な食育だと思っています。3食全て食べられない家庭も少なからずあり、ここではこの2品がどれ程の重さを持つか。食育について考え学ぶべき範囲は広いと思います。深く広く心を育んでいくことを、食育の芯にしたいと私は思っています。
68	地域の伝統料理教室に、子どもと参加ができて、土日祝も開催するなど、もっと参加しやすくなってほしい。

69	スーパー等での賞味期限による食品の廃棄が大量に発生しないように工夫してほしい。
70	世界の中では、日本は充分、安全安心できる食材、食育ができてるように思います。
71	スーパーなどでの食品ロスの問題がいつもニュースになっていますが、夕方に価格を早く下げるなどして、売り切れれば廃棄することもなくなると思う。いつも沢山残っていて売れるんだらうかと心配に思うことがいるんなスーパーであります。行政の方からもスーパーに指導した方が良い。私は喜んで買いますよ。
72	「地産地消」が基本になって欲しいです。
73	安全な食材の提供には、生産者の生活の保障も必要だと思います。また、子供のうちから生産する方々の大変さを知ることや、栄養や添加物などを知ることによって食の大切さを学んで意識していけるようにすることが大事ではないかと思ひます。
74	テレビ番組で熊本県産のアサリが安く日本全国に流通しているのを見ましたが、中国産のアサリを一旦熊本県の海に入れた上で、再度海から回収し熊本産として流通する姿を見て、産地偽装は許さないと思ひました。特に中国産は要注意と思ひますので、産地偽装は徹底管理願ひたい。
75	マスコミ等で食品ロス問題が取り上げられるようになってから、みんなが本格的に取り組むようになり、機運が高まりつつありますが、若干遅いような気がしてなりません。20年位前に知り合いが切り盛りしていた飲食店のごみのほとんどが食品だったのを目にしたときに辟易としたことがあります。その時、お客様の「俺達が注文したものだから、どうしよう俺たちの自由じゃないか」という一言に怒りを覚えました。何を考へているのか、その方の人間性を思わず疑ってしまいました。
76	食料品は賞味期限が近い物は軽く味付けして料理して、冷凍保存して使う。
77	保育園勤務ですが、若いご夫婦のお子さんだと食生活が悪いのがとても気になります。地域の生産者の人の力をかりて、麺物ややわらかい物など、バランスの良いお弁当を提供できたら、仕事帰りのお母さんの気分転換になるのではと思ひています。
78	地産地消の大切さ
79	食品表示の名称の意味が見ても分からない。
80	家族内で勤務形態が異なるため、なかなか家族そろっての食事が難しい。幼い子どももいるため孤食しないように、子どもの時間に合わせて一緒に食事するようにしている。また、幼い時から孤食に慣れてしまうと、大人になって家族をもつようになっても孤食をするのではないかと、とも思っているため、小さい時の経験の積み重ねが大切だと思ひます。
81	食品の買い物をする時は使い切れる分を買うようにしています。食品棚の手前から取るようにして廃棄を少なくするよう心掛けています。
82	学校給食に毎食牛乳が出るのが苦痛な子ども多いらしく、仕方なく時間いっぱいかかってやっと飲んだり、最初から牛乳を取らずにクラスで何個も残っていることもあると聞く。食事内容にあった他の飲み物にならないものかと思ひます。アレルギーが起きやすい食品でもあると思ひます。我が子は、給食の牛乳を楽しみにしていて、家では買うことがないのでありがたいが、学校給食の必須の栄養素として固執することもないと思ひます。
83	コロナ禍で貧困問題も発生していると聞きます。子供食堂などの活動、食品ロス問題など、活動の情報発信などが必要ではないでしょうか。
84	岩手で作られた物は盲目的に大丈夫だろうと思ひているし、日本で作られた物もそう思ひている。だけど、これからは疑うわけではないが、少しいろいろと気にしながら買物しようと思ひました。
85	材料が食卓に乗るまでの過程を知らない子が多すぎる。食事のマナーも親次第のところがあり、食生活についての知識の不足を危惧している。時代の流れといってしまうと、そうなのだが、今一度、食について考へる機会や時間を設けないといけなと思ひます。
86	できれば無農薬の食品を食べたいです。できるだけ家庭菜園で無農薬で野菜を育てています。購入する物の残留農薬が気になります。
87	市で食育を学んで地域でそれを行動するには「壁」が有り、難しいことだと実感しています。町内会など、柵が有るように感じています。
88	地域で郷土料理を教へてくれる人達が高齢になり、公民館等で活動したい際になかなか返事をくれません。
89	食の個性があること。
90	食育のセミナーがあっても平日だったり、会場に車いすでの出入りができなくて、参加したくてもできない。
91	中国産食品の購入は、極力控えている。

【参考】輸入食品の監視体制の概要

- ・販売等を目的に食品を輸入する場合には、国の検疫所に届出を行い、食品衛生法に適合しているか審査を受ける必要があり、審査に不合格の場合は廃棄などの措置が取られます。
- ・審査に合格した場合も、輸入食品監視指導計画に基づいて検疫所がモニタリング検査を行います。
- ・検疫所で輸入が認められた食品は、国内に流通します。
- ・国内で流通する食品については、都道府県が監視指導計画に基づいて収去検査を行い、食品衛生法等の違反がないか確認します。



厚生労働省パンフレット「食品の安全確保に向けた取組」より引用